

Title	東アジアの技術発展政策：政策形成の論理を検証する
Author(s)	
Citation	年次学術大会講演要旨集，9：75
Issue Date	1994-10-28
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5413
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	パネルディスカッション

東アジアの技術発展政策 — 政策形成の論理を検証する —

パネリスト

穴 戸 寿 雄	東洋学園大学
張 恵 春	中国大使館
崔 亨 燮	大韓民国学術院会員
尾 藤 隆	新技術事業団
田 辺 孝 二	通商産業省
下 田 隆 二	科学技術庁
司 会	
平 澤 冷	東京大学

趣 旨

東アジア諸国は、近年めざましい経済発展を遂げている。その活力は産業の振興、とりわけ急激な工業化の進展によってもたらされたものである。このパネル討論では、東アジア諸国の技術発展政策をとりあげ、1) 現在進行しつつある経済的発展への政策的寄与とその役割を事例的に分析すると共に、2) 政策評価のクライテリアと政策形成の前提的論理を見直し、3) 新しい東アジアの技術発展政策として将来あるべき政策理念と枠組みについて検討を深めたい。

“技術発展政策”とは、ここでは経済発展のための技術政策を意味し、産業政策、通商政策、教育政策、科学政策等の枠組みにとらわれることなく、直接・間接を問わず、技術の側面から経済発展を支える政策と広義に捉えることとしたい。

今回のパネル討論で事例としてとりあげる諸国は、中国、韓国、シンガポール、インドネシア、それに日本で、それぞれ背景や環境条件の異なる多様な事例を対象とし、東アジアの状況を多面的に検討することとする。